

# テレビ塔VRホラー大好評

## ダムド・タワー「やばい、怖さ」

名古屋・栄の名古屋テレビ塔で開催中の仮想現実(VR)を使った新感覚ホライイベントVR DIV E「ダムド・タワー ホスビタルサイト」(中日新聞社など主催)が、来場者から「怖いけど、面白い」と好評だ。大学生が体験の様子をインターネット上に投稿した動画は、二万回以上再生。映画関係者も「東京で開催すれば、大ブーム間違いなし」と太鼓判を押す。

(井本拓志)

「アーツ、やだやだ！ が見ていると同じ映像がもう無理！」。真っ暗な四角のブース内で、金城ぶきやソソビなどゲロテス学院大四年の佐竹礼野さん(二〇)が悲鳴を上げ、じんだを踏んだ。外から見る、怖さの秘密は、専用のヘッドセット内で繰り広げられてくるだけ。体験者

「そりゃね、怖いよ。したま怖い」と投稿。お化け屋敷プロデューサーも「お化け屋敷がVRに負けそう」と漏らしたという。映画「リング」などのプロデューサーで、今回の総演出を務めた仙頭武則さん(五七)も名古屋学芸大教授は「一番単純な楽しみ方は団体で来て、自分で体験した後、友人のひびる姿を見て笑うこと。結末も二パターンあるし、体験者の動きによって映像も変わる。何回も楽しんでもらえる」と胸を張る。「全国展開する前にぜひ、名古屋で体験して。はやってからでは、遅いですよ」

この日が二回目の体験だった佐竹さん。開始前は「二回目だし平気」と話していたが、終了後は「全然、大丈夫じゃなかった。手汗やばい」と苦笑した。佐竹さんは先月のプレイベントで同級生と体験した様子を撮影。短編動画共有アプリ「TikTok」に投稿したところ、二週間で二万四千回以上再生された。友人から「面白そう！」「本当にそんなに怖い？」と反応があったという。

映像やホラーの専門家からも評判だ。今月七日に会場した映画監督の青山真治さんは、ツイッターで「これは要するに娯楽の王道だな、とよくわかった」「体験してみないと、そりゃあ二〇一八年を生きた甲斐がない、というもんです」

コラーージュ・赤塚千賀子



「アーツ、やだやだ！ が見ていると同じ映像がもう無理！」。真っ暗な四角のブース内で、金城ぶきやソソビなどゲロテス学院大四年の佐竹礼野さん(二〇)が悲鳴を上げ、じんだを踏んだ。外から見る、怖さの秘密は、専用のヘッドセット内で繰り広げられてくるだけ。体験者

この記事、写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。2018年11月27日 中日新聞社より